

令和 2 年度北海道がん対策基金助成事業の報告について

1 令和 2 年度の助成団体について

(1) 審査・評価部会の審査結果

No.	団体名	交付決定額	実績額	審査・評価部会の結果
1	北海道がん患者連絡会 ※1	500,000	265,000	いずれの 事業も承認。
2	難治性がん啓発キャンペーン実行委員会	350,000	350,000	
3	ピンクリボン in SAPPORO	300,000	300,000	
4	石狩市	150,000	150,000	
5	NPO 法人 パンキャンジャパン北海道アフィリエイト(支部)	300,000	400,000	
6	HHM ホット・ハンドむろらん	300,000	300,000	
7	リレーフォーライフとまこまい実行委員会 ※2	360,000	0	
8	弟子屈町役場 ※2	143,000	0	
合 計		2,503,000	1,765,000	

※1 差額 235,000 円については、令和 2 年度中に返納あり。

※2 新型コロナウイルス感染症拡大により事業中止。令和 2 年度中に交付した助成額については、令和 2 年度中に全額返納あり。

(2) 審査・評価部会委員からの意見

【石狩市】

Webでの配信ができればコロナ禍の開催でも多くの方が参加できてより良かったのではないかな。

【HHM ホット・ハンドむろらん】

ウィッグの貸し出し数、タオル帽の配布数（病院から患者へ）の実績を可能であれば記載すること。

2 事業の実績について

No.	団体名	事業概要
1	北海道 がん患者連絡会	<p>1 事業名【事業区分】 がん患者によるがん教育講師派遣システムづくり事業 【がん教育推進事業】</p> <p>2 事業概要 北海道の「第三期がん対策推進計画」には「関係団体、拠点病院や患者団体等と連携し、児童生徒等を対象としたがんの予防や早期発見等のがん教育に関する施策を推進します。」とあり、また「がん教育」については、医療者やがん経験者などの「外部講師」の活用が推奨されていることから、がん教育を行うがん患者等の外部講師への養成講座やフォローアップ研修を行い、がん教育講師派遣に係るシステムづくりを行うとともに、当該講師によるがん教育実習を行う。</p> <p>3 事業結果 道内のがん患者会、支援団体、北海道教育庁、北海道がんセンターなどのがん診療連携拠点病院等と連携することにより、養成講座等を通じがん教育講師の育成や派遣システムの構築でき、また、道内3校からの要請に基づき外部講師の派遣することができた。</p> <p>(1) 講師養成講座 受講者 32名（うちがん経験者は17名） 〔札幌会場のみ実施。函館、釧路会場は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止〕</p> <p>(2) がん教育講義体験（がん教育実習） 受講者 242名 内訳 〔（十勝）鹿追高校 80名、（空知）深川東高校 26名 （上川）富良野高校 136名〕</p> <p>(3) フォローアップ研修（オンライン研修） 受講者 21名（3月4、25、30日に開催）</p> <p>4 今後について がん教育の外部講師の登録・派遣システムの構築は出来たが、今後は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインによる講座開催や外部講師派遣の体制づくりを含め、事業継続を検討していく必要がある。</p>

2 難治性がん啓発
キャンペーン
実行委員会

1 事業名【事業区分】

難治性がん啓発キャンペーン 10 周年記念 web セミナー
「がんゲノム医療を知ろう・学ぼう～肺がん・すい臓がん治療の
これまでの 10 年これからの展望～」

【がん情報提供事業】

2 事業概要

難治性がんのうち、道内で死亡率の高いすい臓がん及び肺がんについて、5 年生存率の向上と難治性がんの撲滅を図るため、医療者、行政、医療関係企業などと連携しセミナーを開催し、がん検診や早期発見、早期治療等に係る普及啓発活動を実施する。

3 事業結果

(1) 開催概要

ア 日時 : 2020 年 6 月 21 日(日) 13:00~17:00

イ 配信方法 : YouTube Live

ウ セミナープログラム抜粋

(ア)「肺がん治療のこれまでの 10 年と今後の展望」

講師 : 秋田弘俊 (北海道大学病院長/北海道大学病院腫瘍内科教授)

(イ)「すい臓がんのこれまでの 10 年と今後の展望」

講師 : 辻 靖 (斗南病院診療部長/化学療法センター長)

(ウ)「がんゲノム医療について」

講師 : 木下一郎 (北海道大学病院がん遺伝子診断部教授)

(エ)「がんゲノム医療の現状と今後～北海道がんセンターの取組～」

講師 : 高橋将人 (北海道がんセンターがんゲノム医療センター長)

(オ)「ゲノム医療の現在とこれから」

講師 : 櫻井晃洋 (札幌医科大学付属病院臨書遺伝子センター長)

エ 視聴者数 : 147 名

(2) その他

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、初めて Web によるセミナーを実施した結果、従前、参加者がほぼ札幌市内の者であったところが、今年度は、釧路、帯広、北見、函館等と遠方から視聴した者がおり、今後もオンラインによる開催を強く望む声が上がった。

4 今後について

セミナー等の事業を開始して 10 年目であり、節目の年であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、初めてオンラインによる開催となった。オンラインによる開催の反響が大きかったことから、今年度の実績を踏まえ、引き続き行政、行政、医療関係者等と共同し事業を実施することにより、肺がんすい臓がんの 5 年生存率の向上を図りたい。

3	<p>ピンクリボン in SAPPORO</p>	<p>1 事業名【事業区分】 ピンクリボン in SAPPORO 2021 【がん検診受診促進事業】</p> <p>2 事業概要 1人でも多くの市民にピンクリボンの活動や乳がんについての理解を深めてもらうため普及啓発イベントを開催する。</p> <p>3 事業結果 様々なプログラムを提供することにより、乳がんに係る意識付けや、ピンクリボン活動の取組みの周知を行うことができた。</p> <p>(1) 開催概要 ア 日時 : 2020年9月25日(日) 12:00~19:00 イ 場所 : 札幌駅前通地下歩行空間(チカホ)北3条交差点広場 ウ イベント内容抜粋 (ア) ミニトーク「乳がん最新情報」 講師: 大村東生(東札幌病院ブレストケアセンター長) 後藤 剛(勤医協中央病院) (イ) 音楽イベント、リーフレット配布等 (ウ) 乳がん啓発に係るスライドの上映等 (エ) さっぽろテレビ塔ライトアップ(19:00~21:00)</p> <p>(2) 参加者 : 1,000名以上</p> <p>4 今後について 新型コロナウイルス感染症の影響により、乳がん検診率は減少している。引き続き協賛企業や支援団体との連携のうえ、時代にあったイベントを開催し、乳がん検診率向上に係るイベントを継続していきたい。</p>
4	<p>石狩市</p>	<p>1 事業名【事業区分】 AYA・働く世代のがん対策事業 【がん情報提要事業】</p> <p>2 事業概要 AYA世代の患者数は少ない一方、進学、就労、結婚等の多様なライフイベントがある世代でもある。この世代特有の課題を解決するには、医療機関、行政、職場等などが、社会全体で支えていく必要であることから、セミナーを通じ、AYA世代に対する支援についての理解を深め、がんがあっても安心して暮らせる地域づくりの一助とする。</p> <p>3 事業結果 岸田徹氏(NPO法人がんノート代表)を講師に招き市民向け講演会及び高校において授業を実施。セミナーを通じ、若い患者の支援団体に参加することとなった事例や、同じ悩みを抱える者が定期的に集まる交流会の実施に繋がるなどの成果があった。また高校生を対象とした授業においては、自分や家族等の命、将来等を改めて考え直す機会となった。</p>

		<p>(1) 市民向け講演会 ア 開催日時：令和2年11月1日（日） イ 場所：総合保健福祉センター「りんくる」2階 交流活動室</p> <p>(2) 高校生向け授業 ア 開催日時：令和2年11月1日（日） イ 場所：石狩翔陽高校（福祉科の2年生が対象）</p> <p>4 今後について 新型コロナウイルス感染症の影響により積極的な周知を行うことができずに事業を実施することとなったが、時期を改め再度の開催を検討したい。</p>
5	NP0 法人 パンキャン ジャパン北海道 アフィリエート （支部）	<p>1 事業名【事業区分】 希少がんフォーラム 2021～希少がんを学び、繋がる WEB セミナー～ 【がん情報提供事業】</p> <p>2 事業概要 希少がんは罹患者数が少ないため、同じ病気の者と出会う機会が少なく、また病気に関する情報を得ることが難しいことから、孤立することが多い。行政や病院等と協働でセミナーを開催し、希少がんに係る最新の情報を提供することにより、希少がん患者が前向きに治療に向き合う機会を作るとともに、患者、家族、医療関係者を繋げる。</p> <p>3 事業結果 2021年1月23日（日）、WEB セミナーを日本希少がん患者会ネットワークと共催で開催。当日は、YouTube Live において特別講演等を5本行った後、Zoom において部位別等に4つの分科会（グループセッション含む）を実施した。</p> <p>参加者：特別講演 (YouTube Live) 参加者 65 名</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 4em; margin-right: 10px;">{</div> <div> 分科会 (Zoom) 参加者 149 名 軟部肉腫 38 名、 中皮腫 43 名、 GIST 43 名 NET 18 名 </div> </div> <p>参加者は最新の治療法や患者団体等の活動内容を知ることができた。</p> <p>4 今後について 参加した9割がセミナー参加に満足し、今後も参加を希望しており、また、半数以上が病気に対する不安が減ったと回答していることから、今後も継続的に開催し、今後も希少がんの患者、家族の生活の質を向上を図るための活動を継続していきたい。</p>

6	HHM ホット・ハンド むろらん	<p>1 事業名【事業区分】 タオル帽子制作、寄贈とレンタルウィッグ活動 【がん患者等相談支援事業】</p> <p>2 事業概要 抗がん剤の副作用により頭髮の抜けた方や、乳がんにより乳房を切除した方のサポートを行うため、タオル帽子や乳房パッドを作成し、寄贈等の活動を実施する。</p> <p>3 事業結果 年間を通じ、タオル帽子、乳房パッドの作成等を行う講習会を 16 回実施し、タオル帽子 1,150 個、乳房パッド 950 個作成。 当該制作物を病院を通じがん患者に配布するため、北海道がんセンター他 13 病院に対し配布した。 また、医療機関に冊子を置くことにより、レンタルウィッグの利用があった。</p> <p>4 今後について コロナ禍においても、タオル帽子や乳房パッドを必要とする者が多数おり、医療機関からも事業の継続を望む声が多いことから、引き続き事業を継続していく。</p>
---	------------------------	---